



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第11巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の観点よりみた都市機能 : 都市農村の機能論的考察 第2巻 『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1961-03-16
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77620
Type	manuscript
File Information	I014_0111.pdf



11

久美堂特製
¥20

M
M
特
20

NOTE BOOK

Made of paper

Specially prepared in Japan

國民社會の研究
第十一卷

昭和三十一年十月一日

A-NO.3

MUSASHI

11

古来の「宗廟」の祀典の検討

○宗の最も原機能

○氏姓と金銭

○氏姓の祀典の形骸化と「氏」の社会意識

○家外祭祀の形骸化と協力の解

○宗族の祭祀と都市の発展

○宗と行政

○「三才」と「三才」

○宗の形骸化

○文化の重視と祭祀の発展

○「ハリス」と都市の発展

○都市の発展と祭祀

○自然環境と祭祀の発展

○祭祀の発展

○祭祀の発展

○祭祀の発展

○祭祀の発展

○祭祀の発展

52 47 45 43 41 39 26 17 14 11 10 9 7 5 4 2 1

99 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2

古来の口家論の社会を以て検討

アリストテレス
フロイト
マキャベリ
トマス・ペイン

統治する者とされるものとの関係としての邊
及がとこまで進められたか

口家を一つの既成の文化の型ととらえて

口家はもう元にも違ひ違ひするの如きない文化
と見なす考へ方即ち言語の形に成長し居る
しつゝはあまがるが文化であるかにつゝこの
論争

自由主義者各政智主義者の考への根柢

それよとして

対内統治の必要のみかあつて等はない。
外対守衛の必要が先づあつて、その
為に対内統治も必要となりたものと
思はれる。

□家の最々限機能

□家は^{本来}□民の^{対外的な}保護^の為の集團

である。果^然保護の為に必要なる統治を常
時行^はふ^は法律は常に統治するは必要の爲に
生れるのである。

保護し統治す。実力者は少数の援
助者群にとりあかれていゝ保物であ
る。援助者達が統治の爲の組織や
手順を定め、法律法制がその現は
れである。

援助者達の制定す。法律や制度は
□民を保護せしめる、又その爲に□
民を自由に動員するが爲である。

に合理的な又公正な組織や活動を計
画する必要はあるか。彼等自身
及び彼等が援助し奉仕する者か
有利な分配を受けようとする態度
か急がらうとするか。

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

一九五八

ブルジョア的形態経済とプロレタリア的形態経済

ブルジョア的形態経済とは資本主義的形態経済を意味する

人口経済的形態より社会経済的形態

の発展には相互作用が中心に

作用するが、人口の同質異質

論（ロッキンの）がその次に作用す

る。人同国々の同質異質

は更にその次の段階に作用する

る。異質の人間同の国々の増加

と共に都市化が成立する。村落

と都市の別は人口経済的形態より

より社会経済的形態へと向つた

その次に取られる最大の革命的

な

6

双
展
て
あ
。

口家世征服型説と協力の解

統治関係の起源は支配せんとす。強力

者の意志によらざるも被支配を望む弱

者の意志による方かえりあふと考へ

れど然れども、恐らく多くの場合民衆の

その何れの一にのみより見し可き

ではない。あはれは甲の心か。又は乙の心か。

これ等の二の意志は存す。とて

に統治や支配に於ける協力が

存す。根本的現象かあると認め

られ。

口民社会の存の二見対立的な

7

協力が存在す。確ゆき五三にある。

考えにえ。

口定は^{経済}征服者の意主によるであらう。

昔に被征服者の希望による場合も

あふと思はれり。同じ理由によりて、

権の支配関係は権の採取関係

が甚だ自然に現れしものと考え

存在

いれ。

一見強制的な強者と弱者の協力

は権の自然な協力の所であらう。

生活の共同性としての村落（家族―村落）
 支配の共同性としての「家」（都市―「家」）
 生活と家族と村落
 支配と都市と「家」
 （都市）
 「家」は家族の支配の連合体、「家」の中
 に包々の集團が入れ替るものと「家」が
 基礎となる。「家」は都市の中の一つの集團
 として「家」があるといはれない。「家」は統治
 組織である。統治組織のありかえられた結合
 である。行政の上には包々の集團が入れ替るのと同様。

家族、村落、都市、
 「家」（口民衆）
 「家」は家族の集合体としての村落
 （戦場の集合体としての都市）
 都市の集合体としての「家」
 村落（生活の集合体）と都市（生活の集合体）の
 間の関係は如何。
 村落は家族的、生活的
 「家」は都市的、生活的
 村落は及ぶ家族、自足的、生活的、生活の根拠
 「家」は社会的、支配的、支配の根拠

(一一、一五)

口~~民~~と~~た~~けかくるよう一歩進ん
口家と書る元牙かよいするをその
すぐあとに知るに王^二上^一。家族は
都市、口家の系列にある。

(土、お)

家族は都市、口民

従来余~~は~~口民記~~は~~と~~を~~用

ひ、口家と~~を~~記~~を~~さけ~~て~~来たか

二~~家~~つ、の~~記~~記~~を~~し~~て~~口民~~と~~と

あつてもよいと考~~え~~る~~に~~到~~つ~~た。

従来は従来~~の~~口民記~~を~~つ~~て~~あ

口家ではな~~い~~。口家は口民

等~~即~~ち口民~~の~~内に形~~成~~さ

れ~~て~~、集團の一~~種~~である。

口民記~~を~~と~~を~~用~~す~~し~~て~~口民

と~~い~~ふ~~か~~うこの~~な~~口民

と~~い~~ふ~~か~~うこの~~な~~口民

と~~い~~ふ~~か~~うこの~~な~~口民

と~~い~~ふ~~か~~うこの~~な~~口民

(二、一五)

確てあふかに、口民記をも口家と表す、
すゝのは適者である。次の様な記号の
枠の系列がある。

家族、村落、都市、口家

特に村落としてに口家とあ

可である。

生活の統一性としての家族

自足個体としての家族

左の統一性としての村落

社会的な生活の家族

その統一性としての都市

家族の統一性としての口家

(口として都市の統一性としての口家)

農村と都市の協力の秩序保持
者としての都市口家

口民衆の上に重積する。集團の一
つとして口衆があるとは、多量的口
衆海は決つていふのであつて、口衆の
上に重積する集團のつに口民衆
層と云ふのは、物なものである。基
礎を有するのは口衆であつて、他の
文化社會的統一はその上に重
積してゐる。基礎社會は口衆
であつて、口衆の上に統一の文化社會
的統一が形成されてゐる。

統治のためのアッソシエーションの上に他の
のアッソシエーションのなかで後進しコミュニティー
を形成するものかも知れぬ。コミュニティーの
中のアッソシエーションのなかで統治共同性
が形成されるのは誤見である。

コミュニティーとアッソシエーション
マキーンハーの基本的地域結合としての
のコミュニティーと目的的地域結合としての
アッソシエーションの差へ、そして国家
と目的的地域結合とを考へるに反
対する。
私見によれば基本的地域結合と
そのは具体的な近隣と村郷と
都市と国家以外にはない。
これ等のものは本来行政組織と
して発生したものであつて、その上に
ゆるゆるの自然的な交流が加はり
それを修飾したものである。

故に

行政近隣

行政村

行政都市

行政口家に対して

自然近隣

自然村

行政自然都市

自然口家を取れといふ

一見考えらるゝのは自然か先下

行政が彼の様であるか、うちは

その逆であつて

行政近隣から自然近隣か先に

行政村から自然村か先に

行政都市から自然都市か先に

行政口家から自然口家か先に

いふ

てあるから

五人組は行政近隣は別の處に

あて存續し自然近隣となつてゐる。

江戸時代の行政は郡縣制の國體に

行政が郡縣でなかつた。行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

加へるゝと近隣をなすは行政が郡縣に

私の研究対象は

(自由) 家族

(自由) 村落 (自由) 近隣

(自由) 都市

(自由) 口家

の事をなした。

※ 協力しはぬばかり人の力は一人一人の力以上になりはじめた。

力協力の相手は親子最初は親子であつた。子か一人前になつた時それと競争相手又は敵とせず、教える子の延長として何年か何月か共に生活した時か人の協力の発端かはずなつたであらう。

協力の最初の相手は兄弟であつたかも知れぬ。夫婦であつたかも知れぬ。性の為の結合が中止してゐる時の夫婦の協力も考えられぬ。然し二人は此の表裏論と同様、政治の理論には多量な協力のかも知れぬ。

現代日本は新文化に身をつまみ

『文化の重視、多量、発展の要理』
一代毎に反復する。生活の型には経験の多量がなく、発展もあつた。人以外の動物の生活がそれである。人に経験が多量にないのは何時か。*

18 居住の固定がきつた。おし好民族は文化の固定も発展も充分にあり、好む。少くとも遊牧的流浪的生活より、居住の固定は文化の多量に有利である。居住の固定が一代で終る夫婦家族より、永續性の

より、直系家族又は同族は、
多く文化を蓄積し得る。然し同
族家族は無限に拡大する。ゆゑ
あるか居住構造等の異作の連
設技術が是れに伴はなければなら
ない。同族家族はやかて亡い
運命をその内へ持つ居た。家族
構造が一定の形式を有する。後
夫婦家族は無限に存続し得る。
家族型である文化が蓄積し得
る家族型である。
文化として立つて来るが、文化の

語を財産と書か換えてよい。
財産が一代で亡い。(夫婦共々) 家系漸次大き
くなる。やがて亡いわけには
ない。家族(同姓家族)に對して、財産
は無限に増大し多様し得る。家族と
しては直系家族以外はない。
その意味では直系家族は甚だ妙に
出来てゐる家系である。

節制は一代毎に経費が中絶し子
に傳はる経費がある。そして、云はば
一人前になる迄の経費である。一人前
になつてからの生活の仕方についての経費は

死の回^へに^まふし^まない。一人おれたちを救子
は敵でなくとも競争相手である。

釣^りわかれ^を魚^の経路^はと^いふ^の類^は
に横にも伸れて^いる。故^におれ^はよく^いへ^な
匠^も同所^で釣^りあ^いけ^るん^だ。

奥の世界では横に友人知人のすれも
ぬ^れ親^の回^も一人の経路^は他^の人^の
経路^は初^は各同^はて^ある。だが^は初^は
物^はいつ^もた^つつ^も物^は下^ある。人^のが
物^はより^優れ^ている^のは一人^の人^の経路^は
か他の人の経路に^いま^めた^り
差別^をな^らず^かと^ある。前に^行く

人の先例として示されていふものか文化
である。あらゆる人の文化は過去の人の
経験の型である。

他人の家には色々の知恵や愛憎の
経験が世代毎に蓄積し、その家^のの行い
方を考え、愛し、怒り、元々として来るべく
なっている。

けれども家の中にあるいふ解いて考え方
などの特殊の型も家をその内にくみ
こみ、村自体の大きな変革にはなま
りもなく山崩れなけりなう。村自体
もそれを金か口で民衆の大きな変

~~昭和~~ 法統をいける。民生生活の躍進も
 大きなものであつた。最近いける。口
 民生生活の躍進はそれ。正統な大なる
 変革の極である。
 共同化、~~共同化~~ 組織化、合理化の急
 激な成長と云うべきである。

華には一たすりもない。私は今これを
 身近かに感じている。口民生生活の躍
 進つていふものは何か。急激な産業
 の発展である。その産業の発展は秩
 序をかえつゝいふのは口家統治の活動
 である。口家統治の活動がどこまで盛
 栄の発展に秩序を任ず。口民生生活
 にかけるそれ。伴ふ極端な急激な躍進
 にとつて秩序も保つて行くか。井
 口家がこの急激な産業の発展とそれに伴ふ
 民生生活の急激な躍進に對してどうして秩序
 を保つて行くか。
 私は注意深くそれを

達すれば、将来は予測されるが、
口民の発展と秩序の維持は、
也と現在日本の状況を以て、
研究に余念ありとす。

* 都市ネーバーズとは未知人記号であり
 農村村落は既知人記号である。更に
 両者は相互に異なっている。アメリカ
 におけるローバンコミュニティは未知人記
 号である。それと都市ネーバーズとは
 通ずる性質があるから、両者は同一視
 してはならない。ローバンコミュニティは
 得るが、日本村落と日本の都市
 ネーバーズとは同一のコミュニティか
 らない。同じことは取柄のない。

26
 ネーバーズと都市の社会構造
 アメリカではネーバーズの社会構造は
 農村村落と都市ネーバーズとを区別する
 ために、農村村落は既知人記号であり、
 都市ネーバーズは未知人記号である。更に
 両者は相互に異なっている。アメリカ
 におけるローバンコミュニティは未知人記
 号である。それと都市ネーバーズとは
 通ずる性質があるから、両者は同一視
 してはならない。ローバンコミュニティは
 得るが、日本村落と日本の都市
 ネーバーズとは同一のコミュニティか
 らない。同じことは取柄のない。

ソーシャルワークの技術指導等とつミッ
テイオーがニゼーの同じとか都市
社会學における應用研究の二大領
域で應用の外に研究がある。これが
アメリカ都市社会學の構成であ
る。アメリカ社会は外にマス・フミを
社会一般の外に認める。

をさへ米口の都市社会の教
育に満足し得るから皆が同技術
者になつておいて都市生活に役立つ
事はたしかである。
アメリカの大企業はソーシャル
ソーシアラーがある。
知しソーシアラーは右の様なソーシャル
ワークに組織的知識を要する。か
ネーハーストは自然の行政的か二
種以外にはない。恐らくそれは
行政的ネーハーストである。日本では
水か忍ぶる軍口の行政的組織が
既のようにある。大抵ではないと
た。米口はこれを日本の例
に準じて自らの軍口の組織に
利用せんとしている。敗戦

の日本には直ちに廃止する教に
指令した米口が今自口にも
を成せしめんといふのはネーハ
ーフントか如何に好妙な組織的な
軍口の統治組織として活用した
ものかを敗戦日本を洗った
時は、さう見定めたらうかある。

ネーハーフントをコミュニティーと解したり
都市をコミュニティーと解したりして
政策のなつたコミュニティーが、せし
て、社会福祉学の研究内容
とするのは無理である。コミュニティー

とかセーソンは製材にあつてゐるよき
る製材のフミツタイオーからセー
ンオは製材出まゝかゝるをその
ま、都市に適用するのは各税であ
る。都市はフミツタイ下あつて
る。これにもネーハイワードかフミツ
タイ下あつてとくに大變な税への
補償は必要である。

アメリカの製材のフミツタイオーがセー

ソンが日本の製材に適用されるの
を税であるか、おじつ都市でもアメリ
カ流にフミツタイオーがセーソンの製材

30

導
程
に
適
用
さ
れ
よ
う
な
こ
と
に
な
る
。

社会福祉学
社会福祉学
社会福祉学

social organization
social work
social planning

都市社会福祉学教育

今日の都市には様々な社会福祉技術が
普及している。これは必要である。

強く成長しつつある現代都市に人

を技術者は決して不足する技術者か

要である。社会福祉士の生活系種

医療の保健職能紹介指導

職業教育、新見所、養育院

養老院、不登校、児童福祉

の生活指導、就職指導、質屋

の経営、

失業者の生活指導、アセスメント、土木

工学、建築、土木、都市計画、

かくの如き様々分岐の事、技術士は
都市生活の成り立ちに於ては

これは共同生活の如く、
これは共同生活の如く、

す、都市の成り立ちに於ては

である。各段に共同生活の如く、

つけようとするのである。

私をして上げしおれば、明日である。

コミニティは国は次の様に

立派である。

これは福祿、これは官位、

統治するの一部分である。

これは福祿、これは統治機関の

32

自然原素と行政原素との
発生と統治法

原始共產性といふ様に自然原素の
習性より自然近隣集團を
考へるが、~~自然近隣集團~~
は太古から今までつゞいてゐるが、
自然近隣集團は人と世に政治現
象が主として表出するものであ
るより思ふ。近隣集團は常に
政治が作り出したものと思ふ。統治の
上に近隣を組織する時代は常に
作られた政治近隣の残骸の上に
自然近隣が存続してゐる。

中世の頃には政治近隣はなかつた自然色
隣集團はあつたが、古い行政
近隣集團の残骸の上に出来つゝたもの
あり。

近隣集團、その他一般に聚落の
集團は行政的集團としてのみ
生ずるとは云へぬといふ。行政的集
團といふ生ずるゝは容易であら
う人の自由を拘束するものといふ。
近隣集團に限らず一般の聚落
の聚落を行政的措置によ
りして自然の成り行きに任せては

として国紙なるが多いであり。

行政の成長と行政関係との関係
年以内は完成するが、自然林の成長
やその自然の条件は容易に出来ると
の点が多い。

コミュニティーがセーリング行政的
に計画し、設けようとする。

在来の統一を不統一の点もある。

さいほなつ 地方行政の合理的

統一、即ち交流路線の空間的統一

性の認識とかが合理的なコミュニ

ティーがセーリングの基礎にある。

である。

コミュニティーはあつてはよく作つてあ
ると云ふ見方が最も合理的である。

社会的交流の統一がコミュニティー形成の
基礎であるが、そしてそれは政治的根據

の上に立つてゐる。逆は政治的統一

はその他の社会的文化統一の原

因となるものである。行政上の集合がその第一。

政治は文化の上に成立するが、又政治の上

に文化が形成される。

的統一も成長して行く。

(十一月五日)

冠婚葬祭の共同は今では各々
嗜。レーチャータイのみのスポーツも概
然関係をもつと云の公費廉坊下
見あさるすきである。

防犯と自警団を組織する金で交
費の一つも設置したくない。自警し
ては何の活動もしない。金ばかり
用いては。行政の共同の暴力団
としか思えぬ。戦争や内乱用の
政府の親兵隊である。

習字期の人類学的意味

習字期はなつて生活資料を両親が供出し
食ふに配る習字するは夫れであるのは夫
婦家族にありとも知れり。夫婦家族を
生物学的家族と呼ぶ動物に比ぶれば
本能の家族と見降するなりとこれほ
誤りであつて、動物ならば、習字期に
入る前に既に子女と同居を見たりであ
らう。習字期に入つて成人の職業に就くし
衣食の心配をする必要のない夫婦家
族は遂に動物の世界より遠ざか
る。習字期の社会地位を両親が提
供する格になつた時から文化の成長

は物々世界と人同の世界をなさやかり
いさほなをであう。まして直子家
か書てかいは富の言積ををし経験
の言積が用道儀かに加はるてあう
う。

一一一〇

家族は行政の必要を生んた

行政は自然村を生んた同じ現象
から行政家族は自然家族を生ん
たといふ考えもあり得る。

統治の必要は人の部類別を中
要とする事を知り得る。一行政は
人の部類別の必要は行政村統治
の上には必要である。恐らく夫婦とその子
を一族として認識するは自然の現象

であらう。要は行政上の便宜のため

でこの一族に強い結合を期待して

わけておきたであらう。一族として取扱

はれて行く事が出来た事を知り得る。

によつて
に一團はそれ自体の必要に金を出るが故
に固定してしまつたであらう。も
夫婦家族が直系家族^後に成長したもの
は当然の発展と考へられ。

一二、一〇就寝前床上で

国家社会学要理構想

一 方法論

二 国家社会学の歴史の批判

三 国家の構造と機能 法制と武力

四 国家社会の形成と発展 協力秩序の形成

五 国家社会の内部構造 人口と世帯の機能

六 国家社会の外部関係 都市と農村の機能

七 生活構造 生活の機能

八 社会構造 地域の上層階級の上

九 文化構造 文化の機能

十 政治構造 政治の機能

アノミと大衆

二 国家社会の発展と停滞の要因

国家の制度が先で国民生活が
法律は社会生活の事実の上に制定
されて行くものと考えたいかどう
か。国家が考えた理想によって
制度が制定される国民生活を
引きつづけてゆくのが国家の正し
い行方である。子供の成長の
現状に應じて服をつくり、それが
服が子供の体に合っていないとな
る時は、改めてその時の成長に
合った服をして衣をつくこと
を、それが、自然に成長するのは
49

口は経済そのものであった。その成
果に度々感じ、制が制をされる
とのみ考え、また、その家は
どうでいい。

ブラザリアの首都建設はブラ
ザリアの口が植民地性を
一掃した。また、内口の民を
の土地資源開発のために口の中

央部の不毛の地に首都を建設
した。今やこの首都リオデジャネ
イの快適な生活になれた。家
人達も市民達もブラザリアの首

首都はモスクワである。それを
おし却て大統領が国家百年
の大計からそれを取決した。
美国家が建設した建物は、何んか
欠点と色々不便不令現があるが、
小ぢかたである。

け水と首都がここに在ることは、何世
にわたる首都を中へにづき、その
人民生活は、ついに多くなつてあらう。
終戦後家族制度の改訂に際して
法律が、若年の人民生活の平均より
先はして、民元化す。す。不安

を感じし私はそのよしを法律家
若造のうわつた理想論に事か
求む。口民こそ迷惑なきと出づ
いたが、凡そ政治はいつの時代い
しきうあつてあつたと今では
思つてゐる。政治は口民より先
に進むもので、口民のあとを追ふ
てはならぬ。政治界は一步先の
理想家、社会運動者は百歩先の

の理想家。口民は鈍重で、社会
運動家や政治家の率導されて
よた／＼歩いてゐる格だつてゐる。

口 宿はアツシエーランの1つで
ほあよかー コミューニティーのしめをその
おのせつ 祭屋の道をあいてい
やうであ。

十一年四月五日

支配形態の分類

マクスウェルは支配形態を

1. 合理的

2. 傳統的

3. カリスマ的

各分は検討の余地がこの

分類には強えれど、マクスウェル

は口家統治における統治神統治

の支配関係性を考えていた様で

あるが、口家統治の中にある様々の

支配関係はこんな単純なもので

ではない。